



岡山近代化の推進者

にし き いち
西 毅 一

(1843 ~ 1904 年)

教育者、政治家。号・薇山。岡山藩家老池田氏の家臣霜山徳右衛門の長男として岡山城下に生まれる。

1858年（安政5）に父に従って大坂に上り、篠崎訥堂、後藤松陰に学んだ後、帰岡して森田節斎の門人・西後村の学僕となる。後村の没後、'68年（明治元）に後村の養嗣子となり、西姓を称した。

1869年（明治2）上京して田口江村の門人となり塾長となる。同年上海に渡り英語を習得して帰国、外交応接方に就任する。'71年（明治4）廃藩置県後に藩校督事となり、藩学校を普通学校に改めて洋学を教えた。台湾事件が起こると、杉山岩三郎とともに義勇軍を募集、清国攻略を主張した。'75年（明治8）岡山県参事となり、地租改正や小田県との合併に尽力した。翌'76年（明治9）東京上等裁判所判事となったが、翌年辞任。

1879年（明治12）には自由民権運動の高揚

とともに、両備作三国親睦会を設立、国会開設運動に邁進した。同年末に岡山神社で開催された会議では座長として議事運営に当たり、政府へ提出した国会開設建白書を起草した。'90年（明治23）には、第一回衆議院議員に当選、ついで再選されたが'93年（明治26）に辞任した。与党・大成会に所属して政府側になつて行動し、またその議員生活は清貧に徹していた。

1881年（明治14）には、中川横太郎らと岡山藩の庶民教育の場として設立されていた閑谷学校の再興を図り、保覺会を設立して閑谷覺長となる。'85年（明治18）には一家をあげて閑谷へ移り、議員辞職の後は閑谷覺の教育と経営に心血を注いだ。1903年（明治36）には私立閑谷中学校となり、'21年（大正10）に県営移管され岡山県閑谷中学校、戦後は和気閑谷高等学校となって現在に至っている。各界で活躍する人材を多数輩出し、県下の教育界に多大の影響を及ぼした。人を語るとき、常に長を説き短を語らぬという西特有の訓育に、感銘を受けたとある門人は語る。

一方で西は、1880年（明治13）には士族授産のため微力社を設立して社長をつとめるなど、産業面においても旧岡山藩士族の中心的存在となった。自由民権運動をはじめとして、教育・政治・産業など多方面にわたって尽力し、岡山県を近代社会へと導いた傑物の一人であった。

